



愛知工業大学
愛知工業大学名電高等学校
愛知工業大学附属中学校
愛知工業大学情報電子専門学校

平成 28 年春季版

(平成 28 年 5 月 18 日)

世界卓球銀メダルの吉村選手
(卓球レポート提供)



吉村選手 世界卓球 `銀`

強い卓球

名古屋電気学園では国内外の主要な大会で活躍する設置校の学生・生徒が今年前半から相次ぎ、学園表彰が5月までに卓球、ラグビー、競技スキー、バドミントンの計6件を数えています。＝詳報2、3、4面

愛知工業大学男子卓球部は1月に東京体育館で開かれた全日本卓球選手権大会で、吉田雅己選手(経営学科)が男子ダブルスで第一人者の水谷隼選手と組み初優勝。愛知工業大学名電高校卓球部も、同大会ジュニア男子に出場した木造勇人選手(普通科)が愛工大名電として20年ぶりとなる優勝を飾りました。2～3

続く躍進

学園表彰6件

全日本で吉田、木造が優勝 中高はそろって選抜優勝

月にマレーシア・クアラルンプールで開かれた世界卓球選手権団体戦では、大学男子卓球部の吉村真晴選手(経営学科)らが出場した男子日本代表が39年ぶりとなる銀メダルを獲得しました。吉村選手は勝負どころの接戦を制するなどチームの決勝進出に大きく貢献しました。3月には附属中学校卓球部が北九州市で開かれた全国中学選抜卓球大会で4連覇、高校卓球部も郡山市総合体育館で開かれた全国高校選抜卓球大会で2連覇を成し遂げました。

大学ラグビー部は、1月に名古屋市パロマ瑞穂ラグビー場で開かれた全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会で初優勝しました。大学選手権への出場権が得られなかった大学の「もう一つの大学ラグビー選手権」として親しまれている伝統の大会で、練習環境が改善され集中力を高めた部員たちが創部31年で初の主要タイトルを手に入れました。



創部以来の初の全国優勝を遂げた大学ラグビー部

大学競技スキー部は、四方元幾選手(経営学科)が2月に福島県で開かれた全日本スキー選手権大会フリースタイル競技男子デュアルモーグルで初優勝しました。世界各地のフリースタイルスキーW杯を転戦し、外国人選手に負けないパワーをつけるため昨年夏から筋力強化に取り組んできた成果が現れました。

高校バドミントン部の今井大湧君は、2月に福岡県久留米市で開かれた第1回日本障がい者バドミントン選手権大会の男子立位・上肢障がいクラスで優勝しました。バドミントンが2020年のパラリンピック東京大会で正式種目となることが決まっているなか、混戦を制したことで日本代表強化選手の注目候補となっています。

名古屋電気学園の学園表彰は、全国レベルの優勝を果たしたクラブに対し、その栄誉と努力をたたえて行われています。

ラグビー、
競技スキー、
バドミントンも

「愛工大卒業生として立派な姿見せたい」

世界卓球選手権で39年ぶりの男子の銀メダル獲得に貢献した吉村真晴選手（平成27年度経営学科卒業）と大学男子卓球部の功績を称え、名古屋電気学園は3月30日、八草キャンパス本部棟で学園表彰を行いました。中東での試合に出場して23日の卒業式に出席できなかった吉村選手は、1週間遅れの「卒業式」も開いてもらい、「選手としてだけでなく人間としても成長できた」と母校で過ごした4年間の充実した顔で振り返り、懐かしのキャンパスを後にしました。

表彰式では、大学男子卓球部の鬼頭明監督と吉村選手に後藤淳理事長から表彰状が手渡されたのに続き、吉村選手には後藤泰之学長から「おめでとう」の言葉とともに卒業証書・学位記が授与されました。

リオデジャネイロ五輪の日本代表に内定している吉村選手は「自分にとって一番価値がある大きな4年を過ごすことができました。愛工大卒業生としてリオで立派な姿を見せられるよう頑張ります」と謝辞を述べました。

これに対し、後藤理事長が「みんなと一緒に汗をかけた4年間の忘れず、これからの生活と試合を頑張っていたきたい」と励ましの言葉を贈り、



学園表彰に合わせ卒業証書も授与された吉村真晴選手

後藤学長も「困ったときはぜひ母校に相談にきてほしい」と語りかけました。

吉村選手が主将として導いた後輩部員たちも同席し、寄せ書きの色紙を贈るなどして別れを惜しみました。

吉村選手は2月28日～3月6日にマレーシア・クアラルンプールで開かれた世界卓球選手権団体戦で、準決勝まで5戦全勝、勝負どころの接戦も制し、男子日本代表チームの決勝進出に大きく貢献しました。

すでに拠点を東京に移しており、プロ選手として新たな道を歩むことになった吉村選手。「世界大会決勝で大きな壁にぶつかったのも自分にとってはプラスでした。学園で向上できた人間力をファンにも伝えられるような大きな選手になりたいです」と力強く抱負を語りました。

吉村選手は最後に、「お世話になりました」と後藤理事長ら学園職員と共に記念写真を撮り、旅立ちました。



吉田、ダブルスで水谷と初優勝 木造、20年ぶりのジュニア優勝

吉本卓球

1月に東京体育館で開かれた全日本卓球選手権大会では、大学男子卓球部の吉田雅己選手（経営学科3年）が男子ダブルスで、名電高校卓球部の木造勇人選手（普通科1年）がジュニア男子で、それぞれ優勝しました。

学園表彰は2月25日、若水キャンパス北校舎校長室で行われ、後藤淳理事長が両選手と指導者一人ひとりに表彰状を手渡しました。後藤理事長は「2人に続く選手がどんどんでてきてほしい。これからの指導者の皆さんと一層の精進を」と期待を込めて祝いの言葉を述べ、クラブ活動後援会の辻本昌孝副会長も「さらなる上を目指して頑張ってください」と関係者を激励しました。

第一人者の水谷隼選手と組んで初優勝した吉田選手は「このチャンスを何としても生かしたかった。他のペアより積極的にコミュニケーションを取り合い、一本ずつ戦術を考えた。プレッシャーを力に変えることができたと思う」と笑顔で大会を振り返っていました。



全日本ダブルス優勝の吉田選手



全日本ジュニア男子優勝の木造選手

選 拔 卓 球

中学、高校そろって優勝 2年連続

附属中学校卓球部は第17回全国中学選抜卓球大会の決勝戦（3月27日・北九州市立総合体育館）で野田学園に3-0で勝ち、同大会4連覇。名電高校卓球部も翌28日、郡山市総合体育館で開かれた平成27年度全国高校選抜卓球大会の決勝で野田学園を3-0で破り、同大会2連覇を成し遂げました。両部に対する学園表彰は5月6日、若水キャンパス南校舎会議室で行われました。

後藤泰之副理事長が両部の指導者一人ひとりと選手代表に表彰状などを手渡し「優勝して当たり前のように言われるようになった中、プレッシャーに打ち克って優勝したのは大変すばらしいこと」とあいさつしました。

高橋会長も激励の言葉

クラブ活動後援会の高橋治朗会長も「これから大いに鍛え、世界に伍するような力をつけて」と激励の言葉を贈りました。続いて、高校卓球部の今枝一郎監督と松山祐季主将、中学卓球部の真田浩二監督と中村光人主将がそれぞれ優勝報告。2016タイジュニアオープン大会（5月9～16日）に出場する高校の大西尚哉選手への海外遠征費補助激励金も併せて手渡されました。

表彰の後は祝福メッセージが入った特製ケーキを全員で味わい、夏の大会に向けて鋭気を養いました。

表彰を受けたのは次の皆さん。

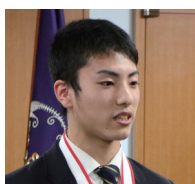
今枝一郎高校卓球部監督、真田浩二中学卓球部監督、増田朗顧問、董崎岷アドバイザー（感謝状）、高校卓球部員、中学卓球部員



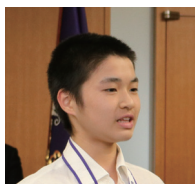
挨拶する
後藤副理事長



激励する高橋クラブ活動後援会長



優勝報告する
高校の松山主将



優勝報告する
中学の中村主将



お祝いのケーキを囲む中高の卓球部員ら

「私も選手も燃えていました」

高校卓球部・今枝一郎監督

全国高等学校選抜卓球大会に出場し、2連覇を果たすことができました。これもひとえに理事長先生はじめ、多くの関係者の方々のご支援とご協力のおかげだと感謝しております。

昨年夏のインターハイでは準決勝で野田学園（山口）に負けてしまい、今大会はリベンジの場だと思い私も選手も燃えていました。1月の全日本選手権ではジュニアの部で木造が優勝、松山、高見がベスト8に入り、徐々に力もつけての大会



でしたので、自信を持って大会に臨むことができ、決勝は野田学園に3-0でリベンジすることができました。

大会を通しては全試合3-0で勝つことができ、数字的には圧勝で終わりましたが、一つ一つの試合は接戦ばかりでした。選手たちが本当に頑張ってくれたと思っています。この結果に驕らず、夏のインターハイでは21年ぶりの優勝ができるようにより一層努力します。団体はもちろんのこと、個人でもここにいる選手たちが同士討ちで決勝を戦ってくれることを目指します。そして日本国内にとどまらず、世界の大会を目指していきたいと思っています。今後とも応援、ご協力をお願いします。

「相手エースに会心のプレー」

中学卓球部・真田浩二監督

全国中学選抜卓球大会に於いて4連覇を達成することが出来ました。初日は予選リーグ2試合が行われ、全員が不安の残る試合内容でしたが、2日目決勝トーナメント1回戦では、見違えるようなパフォーマンスを見せ、選手・応援団が一致団結して戦うことができ、チームに勢いが付いたと思います。

その口火となったのが1番で出場したエース曾根（現2年）の気迫あふれる姿でした。「曾根なら気持ちでチームに貢献してくれるだろう」という私の思い以上の働きでした。調子も上がり練習会場でもイライラするキャプテン中村（現3年）を見て異変を感じました。負けたくない気持ちから自分にプレッシャーをかけていたんだと思います。準決勝前に「結果は求めずやれることを求めよう」と話をしました。決勝1番では最初から最後まで攻め続け素晴らしい試合でした。2番では相手の絶対的エースに白山（現2年）が会心のプレーで勝利し、相手チームの心までも折るポイントとなり、チームもストレートで優勝を決めました。



感謝の気持ちを忘れず今後も頑張ります。ありがとうございました。

大学ラグビー部 全国地区対抗で優勝 創部来の快挙

大学ラグビー部は、1月に名古屋市パロマ瑞穂ラグビー場で開かれた全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会で初優勝しました。大学選手権への出場権が得られなかった大学の「もう一つの大学ラグビー選手権」として親しまれている伝統の大会で、練習環境の改善で集中力を高めた部員たちは1月6日の決勝でも最後まで運動量を落とさず、創部31年で初の主要タイトルを手に入れました。

学園表彰は3月11日、八草キャンパス本部棟で行われ、後藤理事長から岡本昌也監督、長江智春顧問と、40人の部員を代表して青柳大地前主将に表彰状が手渡されました。「力を合わせれば何ができるか、皆さんはこの競技から学んだ」と後藤理事長から努力を称えられた青柳前主将は「優勝の経験をもとに、さらに上のレベルへ行ってくれるはず」と後輩たちに大きな目標を託しました。



学園表彰の席上、東日本大震災の犠牲者を悼んで黙祷を捧げる大学ラグビー部員ら

学園表彰、活躍を讃える

大学競技スキー部四方選手、デュアルモーグル初優勝

大学競技スキー部は、四方元幾選手（経営学科4年）が2月に福島県で開かれた全日本スキー選手権大会フリースタイル競技男子デュアルモーグルで初優勝しました。

デュアルモーグルは、決勝まで1対1の対決を続ける競技。世界各地のフリースタイルスキーW杯を転戦し、外国人選手に負けないパワーをつけるため昨年夏から筋力強化に取り組んできた四方選手は現在、世界ランキング22位。



デュアルモーグルで初優勝した四方選手

学園表彰は3月23日の卒業式の後行われ、西裕之監督、四方選手が表彰を受け、後藤理事長の「これからも頑張ってください」との励ましに、四方選手は「大学へ入って4年間練習を積んできてこういう賞をいただけるようになりました。今後は、2年後のピョンチャン冬季五輪を目指し、さらに一生懸命練習していきます」と笑顔でこたえていました。



学園表彰を受ける四方選手

高校バドミントン部今井君、障がい者選手権で優勝

学園は4月7日、高校バドミントン部の今井大湧君（新3年）、監督の日詰彰則教諭、顧問の立松彰吾非常勤講師を学園表彰しました。今井君は2月6～7日に久留米市西部地区体育館で開かれた第1回日本障がい者バドミントン選手権大会の立位・上肢障がいクラス男子シングルスで優勝しました。これに伴い6月22～26日にアイルランドで開かれるアイルランド・パラバドミントン・国際大会2016の出場権を得るなど今井君は世界の舞台に踏み出そうとしています。

表彰状を手渡した後藤尚之学園事務局長は「おめでとう。よく頑張りました」とお祝いの言葉をかけ、今井君も「6月の世界選手権。またインターハイにも出られるように頑張りたい」と決意を述べていました。

バドミントンが2020年のパラリンピック東京大会から正式種目となることが決まっているなか、大会は昨年設立された日本障がい者バドミントン連盟が、旧大会を改めて初めて開いた全国大会。今井君はインターハイ出場を目標にバドミントン部の活動に頑張っていますが、両親からパラバドミントンの話を聞いて連盟に登録、今回初めて障がい者の大会に参加しました。いきなり日本代表の強敵を破り、混戦を制したことで日本代表強化選手の注目候補となっています。



プレーする今井大湧君。出展：日本財団パラリンピックサポートセンター <https://www.parasapo.tokyo/news/22/> 写真提供：X-1



後藤尚之事務局長から表彰状を受ける今井大湧君

中部日本学生スキー選手権で準優勝

第 61 回中部日本学生スキー選手権大会が 3 月 4 日～6 日、中部地区の 10 大学約 80 人が参加して、長野県・白馬岩岳スノーフィールド他で開催され、本学競技スキー部は男子総合で準優勝しました。優勝は中京大学、3 位は新潟大学でした。個人では、熊谷和真選手（経営学科 2 年）が大回転優勝、スーパー大回転 3 位、回転 6 位と健闘し、チームの準優勝に大きく貢献しました。

一方、常陸宮賜杯第 66 回中部日本スキー大会（1 月 30 日、石川県白山市・白峰アルペン競技場）の大回転・成年男子 A では、競技スキー部の瀧川幸広選手（経営学科 1 年）が優勝しました。



中部日本学生スキー選手権大会の大回転競技で優勝した熊谷選手

大学生の平成 27 年度課外活動表彰（在学生）

●クラブ活動における表彰（団体）

陸上競技部 加藤慧、長谷川士郎、石川竜治、松井駿佑 第 77 回東海学生駅伝対校選手権大会優勝
フェンシング部 五定寛司、児玉健輔 第 65 回全日本学生フェンシング王座決定戦エペ団体第 3 位
卓球部 加藤由行、清野将成、藤村友也、上江洲光志、堀大志、松下大星、吉村和弘 第 85 回全日本学生総合卓球選手権大会団体の部優勝
ラグビー部 河嶋真吾、河野太希、高石裕大、高岸祐弥、木村光毅、我妻豪、久野大地、桑原一誓、津波賢、中川和祥、東田正臣、平野将史、土屋祐介、永田雄也、兵頭正都、川口翔吾、久保敬之、田中謙、中谷篤人、羽野孝彦、林泰造、舟山建太、前島太一 第 66 回全国地区対抗大学ラグビー大会優勝
ヨット部 手嶋遥貴、末永征覇 平成 27 年度秋季中部学生ヨット選手権大会優勝

●クラブ活動における表彰（個人）

陸上競技部 唐澤研太 第 77 回東海学生駅伝対校選手権大会第 5 区区間賞及び優勝メンバー▽生川智章 第 77 回東海学生駅伝対校選手権大会第 6 区区間賞及び優勝メンバー
フェンシング部 島田翔大 2015 年ジュニアワールドカップメキシコ大会サーブル個人第 7 位▽佐藤彰太 2015 年ジュニアワールドカップスロバキア大会エペ個人トーナメント 1 回戦敗退、全日本学生フェンシング王座決定戦エペ団体第 3 位メンバー
卓球部 吉田雅己 2015 ユニバーシアード競技大会団体準優勝、2015 世界卓球選手権蘇州大会男子シングルス 2 回戦敗退（ベスト 64）、第 85 回全日本学生総合卓球選手権大会団体の部優勝メンバー
ラグビー部 芦田朋輝 2015 東海学生ラグビーリーグベスト 15 LO（ロック）選出、第 66 回全国地区対抗大学ラグビー大会優勝メンバー
競技スキー部 四方元幾 FIS ワールドカップ Deer Valley(USA) 大会フリースタイルモーグル第 10 位▽瀧川幸広 常陸宮賜杯第 66 回中部日本スキー大会成年 A 組優勝
洋弓部 長澤宏平 2015 年度東海学生アーチェリー選抜選手権大会優勝、第 54 回全国学生アーチェリー個人選手権大会ベスト 32 ▽長江優 2015 年度東海学生アーチェリー個人選手権大会コンパウンド準優勝、第 54 回全国学生アーチェリー個人選手権大会 コンパウンドベスト 8
ヨット部 鈴木空、石黒武志 平成 27 年度中部学生ヨット個人選手権大会優勝、平成 27 年度秋季中部学生ヨット選手権大会優勝メンバー
弓道部 荒谷律子 第 58 回東海学生弓道選手権大会女子個人第 2 位▽桐生有希 第 48 回東海学生弓道六十射会個人第 2 位、第 26 回東海学生弓道女子新人戦個人優勝

大学生の平成 27 年度課外活動表彰（卒業生）

●クラブ活動における表彰（学部）

ラグビー部 増田遼太 2015 東海学生ラグビーリーグベスト 15FB（フルバック）選出、第 66 回全国地区対抗大学ラグビー大会優勝メンバー▽青柳大地 2015 東海学生ラグビーリーグベスト 15SH（スクラムハーフ）選出、第 66 回全国地区対抗大学ラグビー大会 優勝メンバー
陸上競技部 吉田新規 第 77 回東海学生駅伝対校選手権大会第 7 区区間賞及び優勝メンバー
フェンシング部 越水裕亮 第 65 回全日本学生フェンシング王座決定戦エペ団体第 3 位
卓球部 吉村真晴 2015 世界卓球選手権蘇州大会混合ダブルス準優勝、第 85 回全日本学生総合卓球選手権大会団体の部優勝メンバー



野球部員を従え 50 周年の
挨拶をする奥田好弘監督

大学硬式野球部 50 周年祝う

本学硬式野球部の創立 50 周年を祝う会が昨年 11 月 21 日、名古屋ガーデンパレスで、名古屋電気学園関係者、元プロ選手を含む O B、現役部員ら約 180 人が出席して盛大に開かれ、半世紀の歩みを振り返りながら、さらなる発展を誓いました。

硬式野球部は大学開学 6 年後の昭和 40 年 4 月に発足、学園のスポーツ振興の方針のもと愛知大学野球連盟に所属、強豪・名門として鳴らし今日に至っています。連盟では部員が 100 人を超えるチームも多く、激しい戦いを繰り広げ、プロ

に入って活躍している選手も数多く輩出、また野球を通じて学生を社会人として送り出しています。

式典では来賓として出席した後藤淳理事長、後藤泰之学長、連盟の新井野洋一理事長らが祝辞を述べました。奥田好弘監督は現役部員と共に並んで活動報告し「伝統ある野球部で誇りを持って活動できることは光栄です。学園の一貫した手厚い支援が今日の発展に繋がっています。1 部への復帰を目指して選手も日々精進しております。O B の皆様の支援をよろしくお願いします」と挨拶しました。出席者は和やかに懇談し、最後は O B の松下良士さん（平成 8 年度卒業）の発声で締めました。

元横浜打撃コーチ高木由一さん 本学野球部を指導

大学硬式野球部の春季練習にプロ野球・横浜 DeNA ベイスターズの元打撃コーチ高木由一さんが参加、選手たちを指導しました。高木さんは 1998 年の「横浜・日本一」に打撃コーチとして貢献、当時評判になった『マシンガン打線』の生みの親と称されます。選手、指導者として大洋・横浜で 42 年間のプロ野球人生を送り、2013 年オフの退団後は社会人野球の強豪チーム J R 東日本のアドバイザーなどアマチュア野球の指導者としても活躍しています。今季、奥田好弘・本学野球部監督の知人を通じた紹介で初めて本学臨時コーチを引き受けました。



野球部員を指導する元横浜
打撃コーチの高木由一さん

2 月 18、19 両日は初めて訪れた八草キャンパス野球場で選手一人ひとりの動きを観察しながら、声をかけて基本的なフォームやバッティングについて指導、学生からは「分かりやすく教えてもらいました」との声が出ていました。

3 月 4 日から 10 日間の沖縄キャンプにも参加しましたが、高木さんは「愛工大には素質のある選手も数多くいる。（愛知大学野球リーグ）一部復帰のためには、どうしても勝ちたいという強い気持ちを持つことが大切」と話していました。奥田監督も「念願叶って本格的な打撃コーチの招請が実現しました。伸び盛りの選手に自信と勇気を植え付けていただき、春季リーグに繋がりたい」と話していました。



陸上競技部 東海学生駅伝対校選手権大会優勝！4 年ぶり 10 回目

12 月 6 日、愛知県・知多半島一周コース（63.5km）で行われた第 77 回東海学生駅伝対校選手権大会で、本学陸上競技部が 4 年ぶり 10 回目の優勝を果たしました。東海地区の大学から計 18 チームが参加し、本学は中盤まで 2 位をキープ。後半の 5・6・7 区で 3 選手が区間賞となる気迫の追い上げを見せ、見事に逆転しました。

■優勝愛知工業大学 3:19:52

- 1 区 (8.5km) 加藤慧（経営学科 4 年）
- 2 区 (10.6km) 杉井駿佑（同 2 年）
- 3 区 (8.1km) 長谷川士朗（同 4 年）
- 4 区 (8.3km) 石川竜治（同 3 年）
- 5 区 (10.3km) 唐澤研太（同 2 年）★区間賞 33:21
- 6 区 (5.4km) 生川智章（同 2 年）★区間賞 17:26
- 7 区 (12.3km) 吉田新規（同 4 年）★区間賞 38:14

監督：奥野佳宏 ★監督賞



大学フェンシング部 半世紀の活躍振り返る

大学フェンシング部の創部 50 周年記念パーティーが昨年 11 月 28 日、名古屋市内のホテルで来賓、OB、現役部員ら 100 人余りが出席して盛大に開かれ、半世紀の活動を振り返り、さらなる発展を誓いました。



50 周年を祝うパーティーで記念撮影するフェンシング部OBや現役部員ら

フェンシング部は昭和 37 年 4 月に発足。これまで、団体戦では全国大会 6 度の優勝、個人でも昭和 43 年のメキシコ五輪に当時 4 年だった若杉和彦さん（前監督）が出場、フルーレ団体 7 位に入賞したのははじめ、数々の国際大会、全国大会に出場、優勝も数多く、輝かしい伝統と戦績を残しています。



若杉和彦前監督（手前）の発声で乾杯した 50 周年を祝うパーティー

大学設立から 50 年以上たったのを機に、OB 会（清水茂敏会長）が主催しました。式典で清水会長は「伝統ある部がここに節目を迎えることができたのも来賓やOBの支えがあつてのことと感謝しています。現役の皆さんにお願いがあります。トップを目指してください。OB会も応援団として精進していく所存です」と挨拶しました。

続いて来賓として出席した後藤淳・名古屋電気学園理事長が「早いもので 50 周年、おめでとうございます。こういう歴史は簡単にできるものではない。よく頑張ってきました。今後も若い人は世界を目指して頑張してほしい」と述べたほか、後藤泰之学長は「フェンシング部は中高大が連携を強化しています。この中から東京五輪に出場できる選手が生まれることを期待しています」、日本学生フェンシング連合の田淵和彦会長は「他力本願という言葉があります。周囲の人に支えられ、生かされているということを忘れずに益々高いレベルで頑張してほしい」と、それぞれお祝いと励ましの言葉を贈りました。

この後、若杉前監督の発声で乾杯、懇談に移り、ステージではアカペラの合唱も飛び出すなど旧交を温めていました。

島田翔大選手 JOC ジュニアオリンピックカップで準優勝！

1 月 7 日～10 日、駒沢オリンピック公園体育館（東京都）で第 23 回 JOC ジュニア・オリンピック・カップ・フェンシング大会が開催され、本学フェンシング部の島田翔大選手（経営学科 1 年）がジュニア男子サーブル個人戦で準優勝しました＝写真右。

佐藤彰太選手 ジュニアW杯スイス大会 出場

1 月 16 日～17 日にスイス連邦バーゼル市で開催された「2016 年 フェンシングジュニアワールドカップ スイス大会」に、日本代表として本学フェンシング部の佐藤彰太選手（経営学科 2 年）が選出され、エペ個人戦に出場しました＝写真左。



佐藤選手は、昨年 11 月にも日本代表としてジュニアワールドカップ（スロバキア）に出場しており、今後の活躍が期待されます。

関西学生リーグ戦で優勝、新人戦では 2 連覇

4 月 23 日、24 日に大山崎町立体育館（京都府）で開催された第 66 回関西学生フェンシングリーグ戦大会の団体戦で、本学フェンシング部が男子 1 部フルーレで優勝しました。

また、同日、同会場で開催された 2016 年度関西学生フェンシング新人戦大会では、佐々木拓海選手（経営学科 1 年）＝写真左＝が男子フルーレで優勝しました。同大会同種目では昨年度も島田翔大選手（経営学科 2 年）が優勝しており、本学の選手が 2 年連続優勝となりました。



関西学生リーグ戦の団体戦、男子1部フルーレで優勝

種子島ロケットコンテストで特別賞

昨年認可のロケット研究会

本学のロケット研究会は3月3日～5日、鹿児島県・JAXA 種子島宇宙センターなどで開催された第12回種子島ロケットコンテストに「愛知工業大学チーム」として初参加し、ロケット部門で審査員特別賞（安全賞）を受賞しました。

このロケットコンテストは、国内の学生らが手作りモデルロケットや衛星機能モデルを開発・制作、打ち上げを行い、ものづくりの面白さを体験するとともに宇宙開発の普及などを目的として行われています。技術評価のほか、チームが制作した機体についての技術発表（設計、創意工夫、制作過程における苦労や失敗談、質疑応答）も審査対象となり、技術専門家で構成された審査員による審査で総合点が競われます。

競技はロケット部門と CanSat 部門があり、書類審査を経てロケット部門に34チーム、CanSat 部門に29チーム（北海道から鹿児島までの大学・高専から約250名）が選ばれ、本学チームはロケット部門の「滞空・定点回収」という種目に参加しました。

ロケット研究会では2～3年生が機体の制作とデータ収集を担当、4年生が自作した精度の高い計算プログラムで機体の設計を行いました。種子島は、常に風が強い気候ということから、本番に備え学内で何度も実験を行いさまざまなデータを収集。風速が与える影響についてデータをもとに機体の重心や空力中心（揚力）のバランスを安定させ、滞空時間や回収地点について規定内に収め



られるように機体の重さ、落下速度や発射角度、パラシュートの大きさなどを細かく調整しました。

本番にはロケット研究会を代表して安藤拓也さん、杉浦純平さん、藤本明德さん（ともに機械学科を3月に卒業）と、相村太紀さん（同3年）の4人が参加。滞空時間28.6秒、定点からの距離84m（100mを超えると失格）という結果となり、種目別の入賞は逃したものの、特に安全性に優れた設計であることが実証され特別賞（安全賞）を受賞しました。

ロケット研究会は、昨年認可されたばかりで現在メンバーは18人ほど。JAXAで長年ロケットエンジンの開発に携わってきた機械学科・今野彰教授が指導し、学生チャレンジプロジェクトとして取り組む「宇宙機開発プロジェクト」の一環としてこのコンテストに参加しました。機械学科を中心に電気学科の学生も在籍しており、今回はロケット部門だけでなくCanSat部門（350mlの缶サイズの模擬人工衛星）でも参加したいと話しています。

トピックス

「名電味噌」おいしく仕上がる

名電高校の家庭科研究部が学校の新ブランド「名電味噌」として一昨年夏から仕込んでいた豆みそが、おいしく仕上がりました。1月8日放課後、部員たちが豚汁に調理して先生らに振る舞いました。

豊田市の「蔵元 榊塚味噌」から譲り受けた味噌玉を部室で仕込み、じっくり寝かせて一年半。愛知の豆みそならではの深い色と香りに包まれた60㌔の「名電味噌」が出来上がりました。500㌔のパックに小分けして希望する教職員や卒業した先輩部員らに提供したほか、新年恒例の豚汁の振る舞いで使われる運びとなりました。

大きな寸胴鍋で調理した豚汁は百人分。会場のランチルームには、いい匂いに誘われた教職員や部活動中の生徒らが次々と足を運びました。湯気が上がる器を手に先生らは「本物はひと味違う」とニコニコ顔で、エプロン姿の部員たちからも笑顔がこぼれました。

この日はランチルーム前で恒例のもちつきもあり、部員が交代でついて伝統の食文化を体験しました。顧問の内海那保子教諭は「スローフードが見直されている折、みその仕込みはゆったりと食の本質を感じ取る時間になったのでは。部員たちの自発的な声に期待して今後の活動を考えていきたい」と話しています。



おいしく仕上がった名電味噌。
豚汁に調理していただきました

中高 14 部活をクラブ表彰

学園は昨年 11 月 18 日に吹奏楽など 3 クラブ、3 月 19 日に春の選抜大会などに出場する中高 11 部活を若水キャンパス北校舎でそれぞれクラブ表彰しました。3 月 19 日の表彰では後藤淳理事長が各部顧問の教諭に一言ずつ声をかけながら激励、「来年度に繋がっていく大会です。体に気をつけて高校生は思いっきりやればいい」と挨拶しました。クラブ活動後援会、高校 P T A、高校同窓会などからも激励がありました。

「思いっきりやればいい」後藤理事長が激励の言葉

表彰を受けたのは次の各部活。

【高校】

卓球部 平成 27 年度全国高等学校選抜卓球大会 団体 7 人 郡山市総合体育館（福島県）H28. 3. 25 ～ 3. 28

水泳競技部 全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会 個人 1 人 東京辰巳国際水泳場（東京都）H28. 3. 27 ～ 3. 30

自転車競技部 平成 27 年度全国高等学校選抜自転車競技大会 個人 1 人 熊本競輪場（熊本県）H28. 3. 24 ～ 3. 27

相撲部 平成 27 年度全国高等学校相撲選抜大会 団体個人 7 人 高知県立春野運動公園相撲場（高知県）H28. 3. 19 ～ 3. 20

フェンシング部 第 39 回全国高等学校選抜フェンシング大会 団体 5 人 岩国市総合体育館（山口県）H28. 3. 25 ～ 3. 27

スキー部 平成 27 年度全国高等学校総合体育大会 個人 5 人 アルペン：大鰐国際チャンピオンコース ノルディック：青森あじらクロスカントリーコース H28. 2. 4 ～ 2. 8

スキー部 平成 27 年度全国高等学校選抜スキー大会 個人 3 人 アルペン：志賀高原スキー場（長野県）H28. 3. 9 ～ 3. 12 クロスカントリー：野沢温泉スキー場（長野県）H28. 2. 27

メカニカルアーツ部 ロボカップジャパンオープン 2016 愛知 団体 11 人 愛知工業大学八草キャンパス H28. 3. 25 ～ 3. 28

バドミントン部 第 44 回全国高等学校選抜バドミントン大会 個人 2 人 小真木原総合体育館（山形県）H28. 3. 24 ～ 3. 28 = 30 年ぶり出場

◆昨年 11 月 18 日の表彰

【全日本マーチングコンテスト】

吹奏楽部 団体 80 人 大阪城ホール H27. 11. 22



【第 52 回全日本社会人ウエイトリフティング選手権】

ウエイトリフティング部（女子）個人 1 人 岩手県奥州市江刺総合支所

【第 22 回全国高等学校対抗選手権大会】

ボウリング部 団体 4 人 川崎グランドボウル（神奈川県）H27. 12. 18 ～ 20

ウエイトリフティング部のクラブ表彰 【中学】

卓球部 第 17 回全国中学選抜卓球大会 団体 8 人 北九州市立総合体育館（福岡県）H28. 3. 26 ～ 3. 27

スキー部 第 53 回全国中学校スキー大会 個人 3 人 富良野スキー場・なよろ健康の森（北海道）H28. 2. 2 ～ 2. 6



3月18日のクラブ表彰での記念撮影



昨年11月18日のクラブ表彰での記念撮影



メカニカルアーツ部のクラブ表彰



バドミントン部のクラブ表彰

H27. 11. 19 ～ 21

部活練習に有効活用

若水キャンパス新体育館等

学園が若水キャンパスに整備していた新体育館とグラウンドの「瑞若スポーツセンター」が完成し、生徒たちの体育の授業やクラブ活動の練習に力を発揮しています。

4月5日に現地で行われたオープニングセレモニーでは後藤淳理事長、後藤泰之副理事長、岩間博名電高校校長ら4人がテープカット、後藤理事長が「力いっぱい汗をかき、そこから何かをつかみとってもらうのが教育の場で大事なことです。立派に活用されるよう願っています」とあいさつしました。

完成した体育館は、若水キャンパスで三施設目となる体育館で、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）2階建て延べ1854.6㎡。2階がアリーナで、体育の授業やチアリーディング部、ダンス同好会などが主に練習に使用しています。特にチアリーディング部はこれまで屋外の「光の庭」で練習していただけに、素晴らしい練習環境に生徒たちも大喜び。顧問の前田佳子先生は「本番並みの環境で、レベルの高い練習ができます。今年の大会は頑張ります」と張り切っています。

1階には各部室やシャワー室、更衣室も設けられました。

グラウンドは若水キャンパスで初めて整備され、1周約250mのトラックと100mの直走路のほか、フィールドにはフットサルコートとテニスコート各2面を備えています。こちらも体育の授業や部活の練習に有効活用されています。



新体育館の鏡の前で姿勢や動きを確認するチアリーディング部の生徒たち

名電高将棋部出身・國分雄太さんの名城大チームがアマ日本一

名電高校将棋部出身の國分雄太さんが代表を務めた名城大学将棋部チームが、3月5日に東京都内で開かれたアマチュア団体日本選手権で優勝、アマ日本一の座につきました。同選手権は将棋の学生と社会人の優勝チームが日本一を争う大会で、名城大は初出場ながら、全国優勝経験者をそろえた社会人トップのNECチームに4-3で競り勝ちました。

「この結果を仲間と共に成し遂げることができ、部に4年間携わった者として感慨無量です」と國分さんは振り返りました。「私たちは元から強豪というわけではなく、1、2年生の時に出場した学生王座戦では、東大、京大といった国立の強豪や、早稲田、立命館といった私学の名門にまともに太刀打ちできませんでした。それから打倒強豪校と意識改革を図るようになり、邁進した結果が全国制覇に結びついたのだと思います」

自身が昨年12月、個人戦の学生王将戦で優勝し、チームがこれに奮起して、続く10校総当たりの学生王座戦を8勝1敗で初制覇。関東・関西以外の大学が学生将棋の頂点に立つのは実に30年ぶりという快挙でした。

このチームを引っ張ったのは、國分さんと、高校・大学とも同じ将棋部で苦楽を共にした服部卓矢さんの2人でした。名電高将棋部顧問の原野照久教諭は「良きライバルの2人がいて、名電高将棋部は平成23年の全国大会で男子団体3位に入賞した。國分君は誰にも優しく接する好青年である一方で、将棋を真摯に受け止めて努力していた」と当時の印象を話しています。

この春に大学を卒業し、公務員試験を目指しているという國分さん。「アマ日本一に貢献したメンバーには私を含めて3人の名電高出身者がいて、みんな原野先生に面倒を見ていただいた仲間です。先生がいなければ今の私も今回の成績もありませんでした」と恩師への感謝を語りました。

中部大の水野翠さんも学生女流名人戦準優勝

名電高将棋部からは、中部大学に進んだ水野翠さんも昨年12月の学生女流名人戦で準優勝を果たしています。水野さんは平成24、25年、名電高将棋部が全国大会の女子団体で連覇した時のメンバーです。同部出身者には、これまでも2015年の第47期アマ女流名人を獲得した遠山侑里さんや2009年赤旗名人戦全国2位の吉田稜平さん、2004年朝日アマ5位の宮地隼人さんがおり、かつての部員たちが母校で培った経験を糧に次々と大きな実績を手になっています。



対局する國分雄太さん

卒業生の活躍